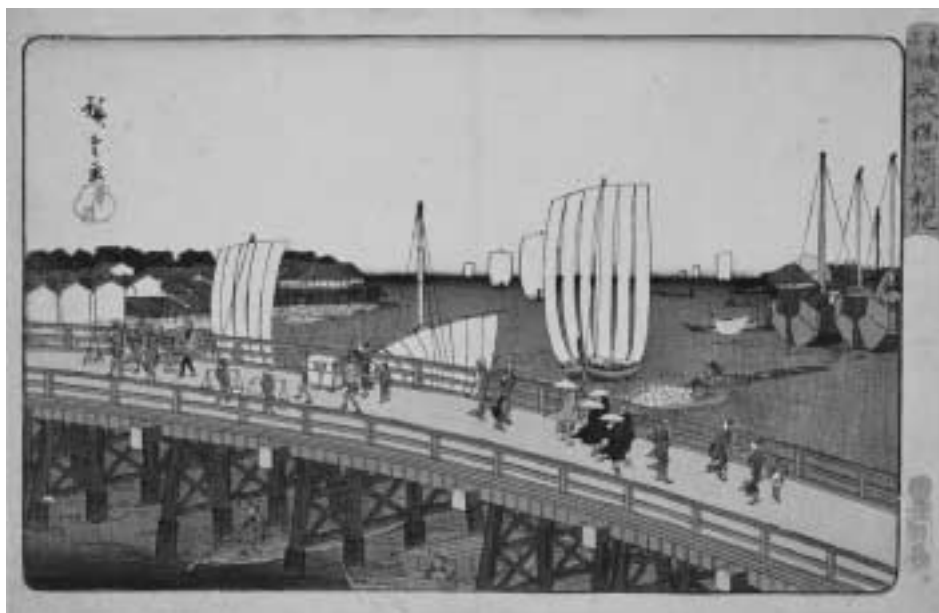


歴史と文化を 考えよう

05 江東区文化財保護強調月間



歌川広重画「東都名所永代橋深川新地」

国立国会図書館所蔵

今年もまもなく文化財保護強調月間が始まります。今年10月16日(日)の区民まつりで開催される民俗芸能大会を皮切りに、旧大石家住宅の特別公開・伝統工芸展・文化財講演会とおなじみのラインアップが続きます。そして4年ぶりに深川江戸資料館との合同で開催される企画展が月間のトリを飾ります。

この他、芭蕉記念館では芭蕉の命日にちなみ時雨忌講演会を、中川船番所資料館では特別企画展を開催します。まさに江東区の「歴史と文化を考えよう」には最適な秋が始まります。どうぞ、ご参加ください。

1、鉦1で演奏されます。
富岡八幡の古舞 富岡八幡宮の大祭で神輿の先頭に立ち、木遣を唄いながら練り歩きます。男鬘に裁着袴といういでたちで祭りに華を添えます。
深川の力持 江戸時代からの倉庫地帯であった佐賀辺りで、米俵や酒樽などの運搬から発生しました。種々の力自慢が加わり、しだいに芸能化していききました。

今年もまもなく文化財保護強調月間が始まります。今年10月16日(日)の区民まつりで開催される民俗芸能大会を皮切りに、旧大石家住宅の特別公開・伝統工芸展・文化財講演会とおなじみのラインアップが続きます。そして4年ぶりに深川江戸資料館との合同で開催される企画展が月間のトリを飾ります。

下町文化

NO. 231
2005.9.28

発行
江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課
〒135-8383
江東区東陽4-11-28
TEL(03)3647-9819
http://www.city.koto.
lg.jp/

05江東区文化財保護強調月間

民俗芸能大会

旧大石家住宅特別公開

文化財講演会

時雨忌(芭蕉忌)講演会

伝統工芸展

江東区教育委員会・深川江戸資料館合同企画展

こうとう名所めぐり 花見・お詣り・出開帳

中川船番所資料館特別企画展

中川がうみだしたものの

江東歴史紀行

「江東の農業 亀戸村の農業を中心に」

17年度区外史料調査速報

ココにも歴史があった

10/16(日) 江東区民まつり

民俗芸能大会

江東区に伝わる民俗芸能の数々を公開します。いずれも区の歴史や産業、文化と深く結びついたものです。
木場の角乗 江戸時代に木場の筏師(川並)が水に浮かべた材木を、鳶口ひとつで乗りこなし、筏を組む仕事の余技から生まれました。数々の技術が加わり芸能化していきました。

木場の木遣 川並衆が材木を操るときに互いの息を合わせるために歌われた労働歌です。木遣とともに大数珠を繰って念仏を唱える木遣念仏は、たいへん珍しいものです。

砂村囃子 江戸時代中期に金町の香取明神社(現葛飾区葛西神社)の神官が農民に教えた祭囃子の流れを汲むお囃子です。大太鼓1、締太鼓2、篠笛

演目次第(予定)

【午前11時～12時30分】

東京都指定無形民俗文化財

「木場の角乗」 木場角乗保存会



木場の角乗

【午後1時～3時50分】

東京都指定無形民俗文化財

「木場の木遣」 木場木遣保存会

江東区登録無形民俗文化財

「木場の木遣念仏」 木場木遣保存会



昨年の様子

文化財保護強調月間の期間に限り、平日も公開いたします。旧大石家住宅では、平日は友の会会員のボランティア

10/17(月)～23(日)

旧大石家特別公開

入場無料

旧大石家住宅は、150年以上前に建てられた区内最古の茅葺民家です。普段の公開日は土・日・祝日ですが、

アの方々が保存活動を行っています。特別公開期間中の平日もボランティアの方々がご案内します。昔の暮らしを伝える民家で、囲炉裏をかこみながら、四方山話に花を咲かせるのも一興です。
場所 旧大石家住宅(南砂5 24地先仙台堀川公園内ふれあいの森)
時間 午前10時～午後3時
 21日(金)には幼稚園・保育園の園児を対象としたお話を開催します。(お話は要申込み)
問合せ 生涯学習課文化財係



深川の力持

江東区指定無形民俗文化財

「砂村雛子」 砂村雛子睦会

江東区登録無形民俗文化財

「富岡八幡の手古舞」

富岡八幡の手古舞保存会

東京都指定無形民俗文化財

「深川の力持」 深川力持睦会

【会場】 都立木場公園(木場4丁目)

入口広場・ふれあい広場

11/9(水) 受講無料

文化財講演会

戦後、都市部では住む人々の日常生活や慣習、地域の様子が大きく変化し、昔の暮らしが失われつつあります。今回の講演は、江東区が昭和58年から平成8年まで行った聞き取りによる民俗調査のエピソードなどもまじえて、民俗とは何か、民俗学で何がわかるのかというお話をさせていただきます。

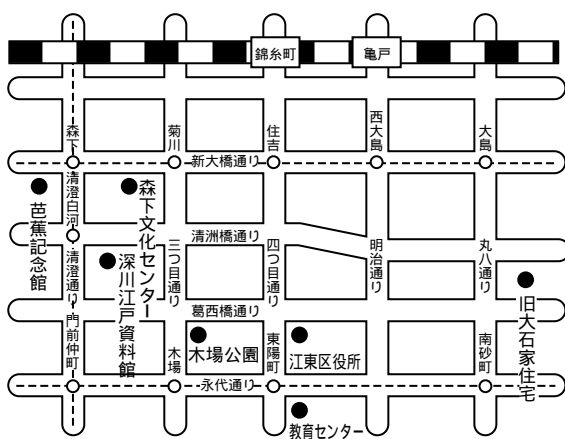
演題 『民俗』はどこにあるのか

「民俗」の発見と「民俗文化財」の誕生

講師 中村ひろ子(江東区文化財保護審議会会長)

時間 午後6時30分～8時30分

各会場案内図



場所 江東区教育センター大研修室

(東陽2 3 6)

定員 80名(先着順)

締切 10月24日(月)

申込 電話で文化財係へ

強調月間協賛事業 受講無料

時雨忌(芭蕉忌)講演会

芭蕉記念館では、10月12日の芭蕉の命日にちなみ、講演会を開催します。

日時 10月9日(日)

午後2時～3時30分

演題 「芭蕉の言葉に学ぶ創作法」

講師 大輪靖宏(上智大学教授)

定員 80名(先着順)

申込 記念館窓口または電話にて

(3631) 1448

問合せ・申込先

生涯学習課文化財係

住所 〒135-8383 江東区東陽4-11-28

☎3647-9819(直通)

10/29(土)~11/3(木)

伝統工芸展

入場無料

江東区の無形文化財（工芸技術）に認定されている職人さんたちの作品を一堂に公開します。期間中には伝統工芸技術の実演公開、気軽に技の体験ができる職人教室などが開催されます。

江東区に伝わる伝統工芸は、本区が江戸時代から首都の消費生活を支え、発展してきた歴史の中で形成されたものです。伝統工芸品や技の実演を通して、江東区の歴史と文化に触れてみてください。

会場 森下文化センター（森下3 12 17）
時間 午前9時～午後5時（最終日は午後4時まで）

実演公開

期間中、伝統工芸品ができるまでの工程を実際に見学できる実演を公開します。日ごろあまり見る機会のない職人さんの技を間近で見ることができ、伝統工芸作品を見て、職人技に触れて、トークを楽しんでみてはいかがでしょうか。



昨年の様子

でしょうか。実演公開の日程は下記の表をご参照ください。

職人教室（技の体験）

職人さんの指導で、技術の体験ができます。見ているだけではわからないコツや感覚を体感してみてください。

【申し込み】

当日、会場2階受付にてお申し込みください。職人教室開始の30分前より先着順で受け付けます。なお、教材費がかかりますのでご注意ください。

チャリティーバザール

期間中、森下文化センター1階ロビーで、伝統工芸品のチャリティーバザールが開催されます。江東区伝統工芸保存会の主催で行われるもので、職人さんたちが販売に協力してくださいます。見所など伺いながら、じっくり御覧ください。

伝統工芸技術の実演公開日程

平日実演日程

日	時	9:30～11:30	13:30～15:30
10月31日(月)		仕舞袴製作 杉浦武雄 帯の芯入れの実演	表具 岩崎清二
11月1日(火)		江戸切り 須田富雄	縫紋 天野一政
11月2日(水)		木工(襖・椽) 鈴木延坦	庖丁製作 吉實庖丁店

実演・職人教室(体験)日程

日	時	10:00～12:00	13:30～15:30
10月29日(土)		木工(指物) 山田一彦 費:1000円 定員:15名	べっ甲細工 磯貝 實 費:1500円 定員:10名
		木工(襖・椽) 鈴木延坦	象牙細工 前田賢次
		木工(彫刻) 渡辺美壽雄	手描友禅 和田宣明
10月30日(日)		江戸切り 小林英夫 費:200円 定員:9名 3人ごと40分交代	染織(更紗染) 更浜 費:2000円 定員:7名
		刀剣研磨 白木良彦	建具(組子細工) 木全章二 費:1000円 定員:20名
		木工(彫刻) 岸本忠雄 費:1000円 定員:10名	木工(指物) 山田一彦
11月3日(木・祝)		簾製作 豊田 勇 費:500円 定員:4名	木工(彫刻) 岸本忠雄
		裁着袴製作 富永 皓	刀剣研磨 白木良彦
		木工(桶) 川又栄一	紋章上絵 石合信也

は職人教室(技の体験)です。

当日、各回開始の30分前より先着順で受け付けます。教材費がかかりますのでご注意ください



職人教室(指物)



職人の仕事場模型(桶製作)

「こうとう名所めぐりー花見・お詣り・出開帳ー」

江東区には江戸情緒を色濃く残す深川の寺町や藤の名所とされる亀戸天神などたくさんのお観光スポットがあります。これらは江戸時代においても名所とされてきました。今回の展示では信仰や娯楽のスポットとして賑わってきた江東の名所を探っていきます。

名所(などころ)とは本来、和歌に詠まれた土地のことで、これが転じて、人々が集まる名だたる場所を指すようになりまし。江戸時代の名所は、単なる娯楽の場所ではなく、信仰などとも密接にからみ合った場所でした。

一、名所を知る

江戸の町人によって江戸の名所案内が刊行されたのは、ちょうど現在の江東区域が、庶民が集住する深川の町々と、豊川や小名木川などの運河が走る近郊農村から成り立った時期でした。江戸・東京市中から隅田川を隔て、日帰りで帰って来れる新開の土地に人々の目は注がれました。

二、名所を描く

錦絵や『江戸名所図会』には江東地



歌川広重「深川三十三間堂」『名所江戸百景』

域の名所がたくさん描かれています。これらと『ふるさと帰りの江戸』などの地誌と比較することで江東の名所を探ります。

三、寺町に行く

深川寺町の年中行事

霊巖寺とその塔頭・学寮が集中する深川寺町にも多くの人が集まるようになりまし。霊巖寺境内にあって江戸の出入口に置かれた江戸六地藏、そして参詣客を呼んだ寺々の信仰行事を紹介していきます。

四、出開帳に行く

富岡八幡宮と三十三間堂

寺社にお詣りした人々は精進落として、平清・二軒茶屋などの名店や三十三間堂に立ち寄ります。こうした場所では寺社の出開帳が興行され、永代寺などは開帳の半常設会場として認識されていきます。江東随一の盛り場を見ていきましょう。

五、水辺に行く

洲崎弁天と木場

江東は運河が張りめぐらされ、海浜も

近かつたため、水辺の名所が豊富に存在しまし。特に洲崎は日の出・日の入りが水平線上にきれいに眺められるため、初日の出の名所とされました。



歌川広重「洲崎弁才天境内全図」『東部名所』

六、樹木の名所と花めぐり

亀戸

亀戸は、特に植物の名所として賑わいました。亀戸天神の藤、龍眼寺の萩は現在でも数多くの観光客を集めていますが、ほかに梅屋敷などもあり、樹木・花で彩られていました。

七、田園風景を行く

大島・砂村

田園のなかにぼっかりと浮かぶ羅漢寺さざむ堂など、大島・砂村地域の名所は自然や緑とのコントラストが見事な名所ばかりです。都市近郊農村を抱える江東区ならではの風景がそこにはありまし。

八、レジャーに行く

明治になつて江東の名所はどうなつていくのでしょうか。深川不動が成立し、日本初の公園・深川公園が開園され、砂町には海水浴場が経営されます。近代レジャーとは信仰と娯楽が切り離されたものと言えますが、江戸名所の連続性もうかがえるようすです。明治

期の名所案内や区民の方から寄贈された民俗資料を通して、近代における江東の名所を考えていきたいと思ひます。

主な展示資料としては、教育委員会や深川図書館など区内の諸機関が所蔵している錦絵がたくさん出展されます。お住まいのそばにある名所について、江戸以来の由来を探ってみませんか。

時間 午前9時30分〜午後5時

ただし、14日(月)は休館日。

場所 深川江戸資料館

(白河1 3 28)地階レクホール

費用 無料(資料館の通常展示の見学には別途観覧料が必要)

【関連企画】

記念講演会

さらに深く知りたい方のため。

日時 11月18日(金)午後6時30分

場所 深川江戸資料館 2階小劇場

演題 「江戸名所のしかげ人 広重と月琴」

講師 小澤 弘(東京都江戸東京博物館都市歴史研究室教授)

募集 200人(先着順) 費用 無料

申込 10月21日(金)より電話にて文化財係まで

歴史さんぽ『江戸名所図会』深川を歩く

企画展を見学したあと、近所の名所を尋ねて

みませんか。

日時 11月19日(土)午後1時〜4時

コース 深川江戸資料館・洲崎神社

募集 60人(抽選) 費用 無料

講師 江東区文化財ガイド員

締切 10月31日(月)(必着)

申込 往復はがきに、住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、文化財係「歴史さんぽ」担当まで。

雨天時は企画展の解説のみ。

11/2(水)~28(日)

中川船番所資料館
特別企画画展

中川がうみだしたものの

本来は自然河川である中川は、江戸時代初頭の関東河川の大規模改修などを経て、現在は埼玉県羽生市を取り入れ口とし、江東区南砂付近で江戸湾に注ぐ河川となりました。その流域は中川低地と呼ばれ、古くから水害に悩まされた地域であるとともに江戸近郊随一の穀倉地帯でもありました。その後、昭和期に入り、荒川放水路の開削によって、中川は旧中川・中川・新中川と3つに分けられ、現在にいたっています。中川や綾瀬川など、多くの河川によって形成された中川低地は、江戸近郊であるという地理的要因も伴って、農・工業製品が数多く生産され、江戸へと運ばれていきました。また、吉川あたりまでは海水が混じっている中川は淡・海水魚の宝庫でもありました。今回の特別企画画展では今や「地味な川」となった中川をとりあげます。特に「中川がうみだしたものの」に着目し、歴史的なつながりや踏まえつつ紹介していきます。

中川の歴史をたどる

中川がたどってきた歴史について地図や写真とともに振り返っていきます。江戸時代の河川改修だけではなく、明治以降に入っても荒川放水路、中川、新中川の開削によって、その景観は変貌を遂げました。

一方、近代の河川改修によって木下川水門より下流は旧中川となりましたが、工場や生活排水などの影響で水質汚染が進み、一時は埋め立ての計画が上がったほどでした。しかし、現在では大島・小松川公園や荒川ロックゲートが建設され、新たな憩いの場となっています。このような歴史的な移り変わりについて紹介していきます。

中川がうみだしたものの

ここでは、中川流域で生み出されたさまざまな製品を取り上げます。中川低地は江戸近郊の穀倉地帯であり、質の高い米穀が江戸などに運ばれました。また、草加や越谷のせんべい、八潮の白玉など、さまざまな米穀加工品も生産されるようになります。特に、越谷周辺で生産された太郎兵衛糯は、戦前期にかけて高い品質を誇った糯米です。現在では、種の保存を行うのみが生産されています。



太郎兵衛糯

質を誇った糯米です。現在では、種の保存を行うのみが生産されています。一方、明治期

以降、日本の近代化にともなつて東京に比較的近い中川流域は工業化していきます。明治の近代化を象徴する工業製品レンガは葛飾や八潮などで生産されました。

また、江戸時代よりの伝統産業である浴衣地の染色、随筆にも描かれた松伏・越谷の桃などといったものも取り上げていきます。

江戸・東京近郊の釣り場 中川流域

『江戸名所図会』で取り上げられた中川釣鱸に象徴されるように、中川は江戸時代の人々にとっては手軽な釣り場としてとらえられていました。日本最初の釣り指南書と呼ばれる津軽采女の『何羨録』にも中川の鱸釣りのポイントが記されています。

また、明治時代には幸田露伴や石井研堂といった人々が中川の釣りを紹介し、大正時代以降に発行された釣り雑誌にも中川の釣りは取り上げられました。戦後になって水質汚濁などによって一時期中川の釣りは衰退しますが、現在では再び釣りを楽しむ人が増えて



石井研堂著 『釣遊秘術釣師気質』当館蔵

亀井鳴瀬と葛飾俳句

『一俳人のながめた中川・荒川放水路』 亀井鳴瀬は西小松川の香取神社の主であるとともに地域に根ざした俳人でもありました。特にのどかな田園風景であった「葛飾」の風物を守るべく、周辺の俳人たちとともに葛飾俳句という俳句結社を作るとともに、葛飾の良さを俳句や随筆にして取り上げました。

ここでは、昔ながらの中川流域の風景を愛した亀井鳴瀬を取り上げるとともに、同時期に活躍した近代俳句の巨人石田波郷の写した風景なども展示し、昔ながらの中川流域である「葛飾」を紹介していきます。(龍澤 潤)

中川船番所資料館

開館時間 午前9時~午後5時(4時30分までにお入りください)
休館日 月曜日(月曜日が祝日および振替休日の場合はその翌日)
観覧料 大人200円(団体150円) (小中学生50円) (団体30円) (団体は20名以上)
交通 都営地下鉄新宿線東大島駅下車 徒歩5分
問合せ ☎03(3636)9091

江東の農業

― 亀戸村の農業を中心に ―

江戸東京近郊の野菜の名産地

江東区域は人口の密集地である江戸（東京）の中心地に近く、腐食しやすい野菜を新鮮なまま町の人々に届けられる距離にあるという地の利を生かし、蔬菜（野菜）の栽培が盛んでした。特に砂村など、現在の江東区の東側にあたる地域は農村地帯であり、この地域でとれる南瓜・胡瓜などが江戸の町の人々に親しまれていました。砂村産の野菜は今で言うブランド品のような扱いで、川柳や落語などでも「砂村」は野菜の産地として連想される地名として扱われています。しかし、残念ながら江東区域の農村の様子や農業の実態を知ることができる史料はあまり残っていません。今回は、その中でも、江戸時代の史料の写しが残されている亀戸村を中心として、江戸時代からの江東の農業の様子を見ていきます。

「書上帳」に見る江戸時代の亀戸村

江戸時代における江東区域の農業の一面を知ることができる資料の一つに「隅田須崎寺嶋亀戸邑々書上帳」（以下「書上帳」と記す）の写本があります。

この史料は白鬚神社（墨田区東向島）所蔵のもので、文化2年（1805）の亀戸村他3カ村の村役人が、それぞれの村の概況を記して領主に提出したものです。昭和時代に写されたもので原本は残っていません。

この「書上帳」のような史料は、「村明細帳」などとも呼ばれ、一般的に、税などの負担を軽くしようと村の苦しい状況を強調して記す傾向があります。ですからこの史料が当時の状況をありのままに記しているとは言い難いのですが、当時の村の全体像を伺うことができる貴重な記録には違いありません。表1は、「書上帳」に記されている項目の中でも一部を取り上げ、亀戸村と他の村を比較しやすいように表にしたものです。

隅田村・須崎村・寺嶋村は現在の墨田区内にあった村です。その他の村と亀戸村の違いを見てみると、次の2つのことがわかります。

他村に比べて五穀の他の作物の種類が多い。
耕作地の面積（反別）の割合が、他村

表1

	隅田村	須崎村	寺嶋村	亀戸村
反別	731反611	234反123	1298反314	1877反515
	597反306	136反315	998反304	896反520
	134反305	97反808	300反010	980反925
五穀の他の作物	茄子・ささげ・唐茄子・菜	菜・大根・瓜・茄子・ささげ	瓜・茄子・ささげ・菜	菜・大根・葱・ちさ・ほうれん草・茄子・ささげ・いんげん・白瓜・胡瓜・丸漬瓜・冬瓜・唐茄子・唐もろこし・ずいき・なた豆・しゅんぎく・枝豆

は畑より田の面積の方が広いが、亀戸村は田と畑の割合がほぼ同じ。

この理由は、同じ「書上帳」の中にある他の記述で伺うことができます。村の用水や水害旱魃（かんばつ）については記された文には、亀戸村は溜池や用水のない「天水場」であり、四方に川を廻らしているので何度か洪水に襲われる一方、土

地は低いがやはり「天水場」であるために旱魃にもたびたび見舞われる、とあります。天水場というのは一般的に雨水を溜めておく場と解釈されますが、「溜池」は無いと書かれているので、溜池といえる程ではない小規模の池のようなものだったと考えられます。このような記述から、亀戸村では稲作に必要な水が確保しにくい土地性ゆえに、畑の割合が多くなったのではないでしょう。さらにいえば、さまざまな性質を持つ多くの品種の作物を栽培することにより、どんな気候の時にもできるだけ作物が全滅しないよう備えていたとも推測できます。

明治時代初期の江東の農業

明治5年（1872）に東京府が調査・編集した『東京府志料』でも亀戸村の産物を詳細に見ることが出来ます。それによると、亀戸村では「米」「大麦」「大豆」「京菜」「細根大根」「胡瓜」「茄子」「白瓜」「冬瓜」「枝豆」「漬菜」「梅干」など、江戸時代の史料でも見られた物だけでなく、他の作物も見られます。

この史料では江東区内の他の村々の産物についても詳細に記されています。そこで、亀戸村など現在の江東区内にあたる村々の産物を見ていくと、地域によってある程度の傾向があることが

わかります。それぞれの村の農産物の生産量を比べてみると、小名木川より北側の村では米の生産量がその他農産物の生産量を上回っている村が多く、逆に南側の村々は米の生産量よりも他の農産物の生産量の方が上回っている村が多いのです。

江東区域の農村の特質

江戸時代の史料では亀戸村と現墨田区に存在する村を比較してみました。明治時代初期の史料では、亀戸村と江東区内の他の地域を比較してみました。以上の比較によって、江戸時代から明治時代までの江東区域全体の農業の様子を考えてみます。「書上帳」においては亀戸村は同じく記されている他3村と比べると、畑の割合が多く野菜類の栽培が盛んですが、その他の江東区域の村々、特に南側の村々と比べると、逆に亀戸は米の生産が多い土地だったといえるでしょう。つまり、江東区域全体の農産状況を墨田区など近隣の他の区域と比較すると、米よりもその他野菜類の生産が多く、さらに江東区域内でも南にいけばいくほどその傾向が顕著だったといえるでしょう。

明治時代以後の江東の農業

明治時代の末期になると、江東区域でも工業化が進み、土地も次第に



胡瓜五種。右端が砂村節成

描かれた江東名産の野菜

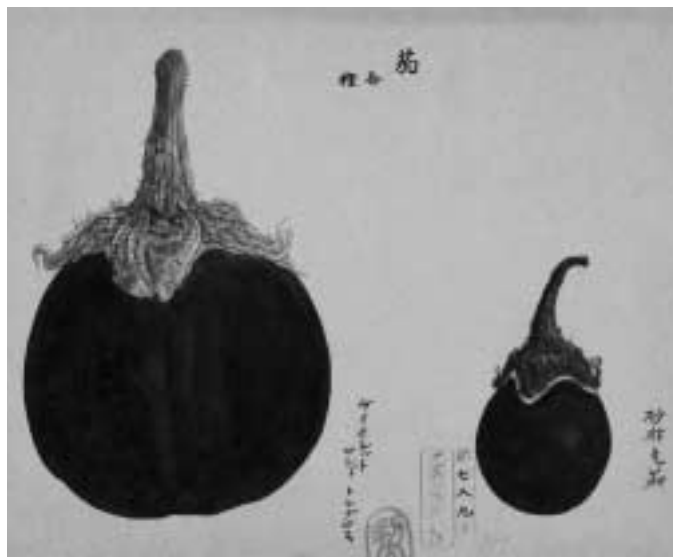
こうして急速に江東区内での農業が衰えたことにより、かつて江東区域内の村の名産となっていた野菜でも今では無くなってしまったものがあります。しかし、そのなくなってしまうた野菜

工場や町に変わり、農地が減少していきました。大正時代になると蓮の栽培で収益が上がるようになり、再び農地も増えましたが、大正6年(1917)の水害、同12年の関東大震災で大きな被害をうけたことを期に、急速に江東区域での農業は衰えていきました。

の一部は『細密画』として東京都農林総合センター(旧東京都農業試験場)で所蔵されている絵で姿を見ることが出来ます。この絵は明治33年(1900)に「東京府農事試験場」として設立された当初から昭和時代まで継続して描かれてきたもので、施設における品種試験の結果の記録・保存のために描かれてきたと考えられています。



亀戸大根



茄子二種。右が砂村丸茄子

写真にある「砂村節成キュウリ」「砂村丸茄子」「亀戸大根」のうち、現在残存が確認されている品種は亀戸大根のみです。(写真の画は全て東京都農林総合センター所蔵)

近年めざましい発展をとげ都市化した江東区の風景からは、かつてそこに農地が広がっていたことのみならず、江戸・東京近郊における有数の野菜の産地だったことを想像することは難しいかもしれません。ですが、これまで見てきたように、江東区域の中にも、かつては農地が広がる農村が多くあり、野菜の名産地として知られていたという歴史もあつたのです。

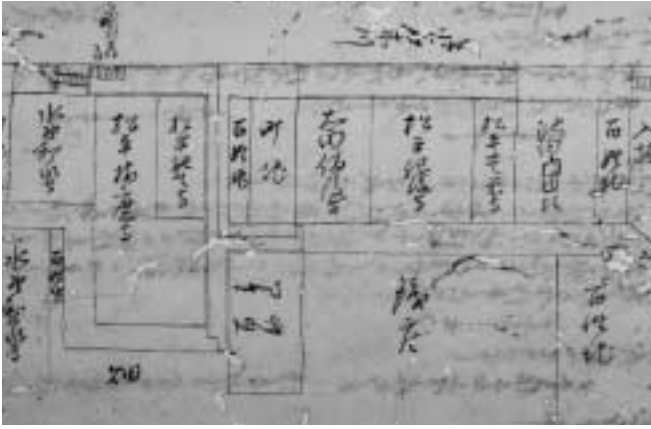
(中川船番所資料館 早田美智代)

17年度 区外史料調査速報

8月1～3日に福岡・柳川へ行ってきました。目的は観光！ではなく、史料調査のためです。江東区はたび重なる震災・戦災により、史料（紙に書かれた古文書類）は壊滅的な打撃を受けました。ゆえに区外の施設に所蔵されている史料を積極的に集めています。

今回の調査では、福岡県立図書館、九州大学九州文化史研究所、柳川古文書館などをまわり、福岡藩黒田家、柳河藩立花家関係の文書を調査しました。

福岡藩黒田家は現在、清澄庭園がある場所に下屋敷を構えていました。関

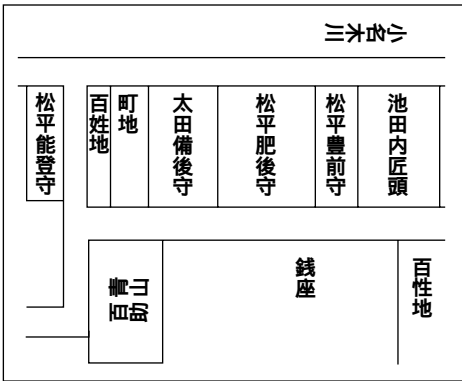


「仕番帳書抜」添付絵図（部分）柳川古文書館蔵

係史料は見つかりませんでした。安政2年（1855）の大地震による被災図などを得ました。

一方、柳河藩立花家の文書の中には、江戸において庶民の信仰を集めた太郎稲荷神社（亀戸天祖神社境内に移築・大島稲荷神社に合祀）に関する史料や、立花家の家臣が門前仲町の料理屋で食事をした際の請求書（約5両）、羅漢寺修復のための寄進を城東地域に屋敷を構える大名に触れ渡した廻状、分家の下手渡藩主（上屋敷が区登録史跡）からの書状などを撮影しました。

この中に「仕番帳書抜」という史料があり、立花家が小名木川南岸の道に設けられた仕番役を勤めていたことが明らかになりました。この史料自体も大変おもしろいものですが、添付されている寛保3年（1743）の絵図

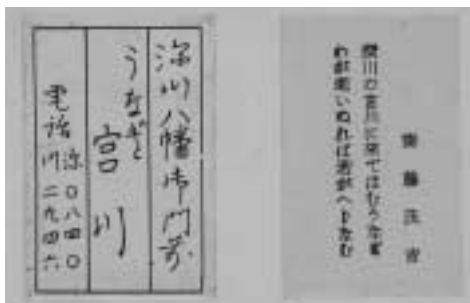


銭座部分見取図

（図参照）から興味深いことがわかりました。この絵図は、大横川と小名木川が交差する東南岸（現在の扇橋1・2丁目、石島・千田）を描いたものです。右下に「銭座」という記載が見えます。現在の千石・石島・千田・海辺・扇橋一帯は深川十万坪という江戸時代に開墾された広大な土地で、ここに銭座がありました（区登録史跡「十万坪鑄銭場跡」。『葛西志』によれば、

享保11～17年（1726～32）にかけて寛永通宝が製造されたそうです。しかし、今まで十万坪に銭座があったことはわかっていませんでしたが、場所が特定できませんでした。今回撮影した史料によって、銭座が十万坪の北側にあったことがわかります。このように区外史料調査では思いがけない事実を見つけたことがあり、区外調査の楽しみの1つなのです。

ココにも歴史があった



江東地域の名所をテーマにした合同企画展がもうすぐ始まりです。名所には名物がつきもので、

江戸近郊の行楽地としてにぎわった深川の名物のひとつにうなぎがあります。江戸時代の洒落本や人情本には深川のうなぎ屋へ行くという場面がたびたび登場します。写真は、「深川八幡前 うなぎ宮川」のマッチラベルです。裏には「深川の宮川に来てはむうなぎわが老いぬれば若かへりなむ」という斎藤茂吉の短歌が印刷されています。寄贈されたコレクションの中のひとつで、昭和20年代中ごろのものと思われる。

それを味わうことができる飲食店もまた、名所には欠くことのできない存在です。名所を訪れ名物を口にするのは、昔も今も変わらない楽しみのひとつといえます。

マッチが暮らしの必需品だったころ、中身がなくなると捨てられてしまうマッチ箱に、商店や企業は意匠を凝らして宣伝に活用しました。